

安濃ガイド会草陰のご紹介

尾市宇三郎

土清の会にお世話になり六年余になりますが、現在私には、所属する会がもう一つあります。安濃ガイド会草陰といいます。

この会は、平成23年、公民館講座「我が町探訪」という、安濃町を訪れた人々に名所旧跡を主体に町の紹介をするという主旨の公民館活動を前身として誕生いたしました。安濃町は、ご存知の通り、広大な面積を保有する農業を中心とする町ですが、古来より、安濃、村主(すぐり)、明合(あけあい)、草生(くさわ)の四地区に分かれており、広さの割にはガイドをする時の説明が楽なところですが、また、各地区に公民館があり、駐車場にも恵まれ、のんびり感が味わえます。

草陰という名前の由来ですが、この地を詠んだと思われる「萬葉集」巻14の「草陰の安努な行かむと壱りし道阿努は行かずて荒草立ちぬ」から採ったそうです。先の戦災の被害も少なく、古代の古墳や寺、仏像などが数多く残っております。又、ガイドの人数も、設立当時は10名でしたが、現在は18名になっており、ガイドの半纏(はんでん)も草色に揃え、インパクトのあるイメージにしております。

又、霊峰・経ヶ峰、長谷山等の山々にも恵まれ国史跡である明合古墳より眺める姿は正に雄大です。

後学の為とまではいえないかも知れませんが、皆様この地も訪れてみませんか？ (完)

連絡先 〒514-2302 津市安濃町安濃 1375

会長 荒木正宏(あらき・まさひろ)

TEL 059-268-0190

携帯 090-3879-4522



秋日断想

萩野三明

長年、機会があればと思っていたながら、ついぞ足の向かなかったJR 相可駅に程近い竹川竹斎(1809-1882)の射和文庫(いざわぶんこ)を昨秋、ようやく訪れることができた。

予約の電話を入れたところ、今日なら都合がいいので開けて待っていますと言われ、約束の午後1時に間に合うよう車を走らせた。草むしりをしながら待っていて下さった上品な老婦人が電話対応の主で、屋敷の内部や文書・資料の説明をしていただいた。勝海舟や小栗上野介忠順ら幕末史の緋々たるメンバーとの交流を示す手紙類には、射和文庫の蔵書を目当てにはるばる江戸を含め各地から、松阪の山奥までわざわざ足を運ぶ人たちがいたという事実を教えられ驚いた。また、竹斎が近所に住む兄弟と筆写したというマテオ・リッチの『万国全図』(1602、北京)は直接手にとって見せていただき、息のかかるまで顔を近づけて面相筆で書かれた細かい文字「日本海」を確認した。和紙の資料は、こうして人が手に取って読むことにより、風を通し手脂を染みこませることになって、自然と資料保存活動を行っているのではないかと気付かされた。

掃り際、竹斎に先立つことちょうど100年前の生誕である、われらが土清さんとの違いにある種感慨にふけりながら立ち上がって、ふと目にした長押の釘隠しに、又、驚かされた。谷川土清旧宅の兎の釘隠しとそっくり、というかそのものではないか。竹斎のご子孫でもあるご婦人にお尋ねしたが、特に由来のあるものではないとのこと。

旧宅の兎の釘隠しは、谷川家恒徳堂の診療科目が産婦人科であることから、多産である兎が安産祈願の印として使用されたとの説明がなされてきたし、小生は、それとは別に土清さんの誕生月2月の干支が卯で名前の昇と合わせた昇卯(しょうぼう)を号としていることから、兎は土清さんのシンボルみたいなものだと思っていた。

ところが、調べてみると射和文庫の他にも、兎の釘隠しは飛騨高山の陣屋や井伊直弼の埋木舎(うもれぎのや)にも見られることから、一般に子孫繁栄を願ったり火難除けとして広く使用されていて、真向兎(まっこううさぎ、まむきうさぎ)とも呼ばれ、土清さんのシンボルでないことはもちろん、必ずしも産科の専売特許でもないらしい。真向兎は既に意匠として確立していて、特別に詠えたものでもなく、土清さんや同時代の人による直々の説明がない限り、安産祈願の印として、というのはもっともらしい後世の後付で、本当のところは単に子孫繁栄、火難除けの意味しか持たないようである。

家業のお産と関わりのあることにおいて、何の問題もないのだけれど、少しでも真実に近い説明や理解を得たいと思うのが人間である。些細な事実の積み重ねがそれを可能にすると信じて、コツコツと学んでゆこう。そんな思いを新たにした秋の一日であった。